

多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.1 2 3】
添付ファイル: 地裁民事第一審通常訴訟事件・医事関係訴訟事件の認容率 (最高裁統計).pdf;
1 1 1. 薬剤からの離脱症候群 (精神科治療学) __第34巻増刊号.pdf; 知っておきたい
稀な精神症候・症候群 (精神科治療学) __第34巻増刊号.pdf

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、
医療過誤団体、野党政党等の約300カ所へ送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。
本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1)新規の情報提供希望者が身近におられた場合、**BYA-HPの「お問合せ」**をご紹介ください。
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2)有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3)情報の中で「拡散すべき情報」があれば、皆さんの判断で「**転送・SNS拡散**」してください。
- (4)また、皆さんが支援する政党があれば、**ベンゾジアゼピン薬害の実態を政党にお伝えください。**

【目次】

- 1-1. 知っておきたい稀な精神症候・症候群 (精神科治療学) __第34巻増刊号 (添付)
- 1-2. 薬剤からの離脱症候群 (精神科治療学) __第34巻増刊号 (添付)
2. 国会への請願の署名の状況
3. 医者に睡眠薬を飲まされ続けて失業…精神科「処方薬依存」の恐怖
4. 故カサンドラ・ナーバークAug 27, 2018 (米国人の遺書)
5. スノーボード元五輪代表 国母和宏容疑者逮捕 大麻取締法違反の疑い 厚労省麻薬取締部
6. 薬物中毒と自殺、平均寿命縮める=H I Vの感染拡大以来一米
7. 血中濃度の変化と離脱症状
8. 民法・民事訴訟法の改正が必要 (添付)

【記事】

- 1-1. 知っておきたい稀な精神症候・症候群 (精神科治療学) __第34巻増刊号 (添付)
最新の精神症候・症候群に関する医学文献 (2019年10月25日発行) です。

目次のみなので、ご自分の気になる症状があれば、各自が原書籍を参照ください。
原書籍は、医学部のある大学であれば「**医学部専用図書館**」がたいていありますので
「精神科治療学」(毎月発行)もだいたいあり、公立大学であれば誰も利用できます。
なお、本書籍は名古屋市立大学医学部図書館にて複写したもので、研究目的として
複写申請しております (著作権適応外)。

- 1-2. 薬剤からの離脱症候群 (精神科治療学) __第34巻増刊号 (添付)

全項目の精神科治療学__第34巻増刊号の1 1 1項の記事です。
相変わらず、ベンゾジアゼピンの減薬は2-4週間ごとに1/4などと杜撰な内容で、
出所はすでにお送りした「アルコール・薬物関連障害の診断・治療ガイドライン__
じほう社2006 (白倉克之、樋口進、和田清) から「**丸写ししただけ**」です。
このような減薬方法では、ベンゾジアゼピン1日当たり100錠でも1錠でも同じように
1/4づつ減らせば、100錠の患者は一気に25錠減らすことになり、重篤な離脱症状
へまっしぐらです。**原用量を考慮していない減薬方法は出鱈目**ですので、**ご注意**。

この資料も名古屋市立大学医学部図書館にて複写したもので、研究目的として
複写申請しておりますので、著作権適応外ですが、**皆さんが営利目的で再利用する**

ことは制限されますので、ご注意ください。

2. 国会への請願の署名の状況

現在、秋の臨時国会が開かれています。12月には閉会します。衆参両院へのベンゾジアゼピンの請願は、2020の通常国会へ提出しますので、来年1月中頃提出予定です。

現在の署名数は、318件（両院合計）ですので各院ごとでは159件です。

出来れば、3桁（1000件）台にしたいが、難しいそうです。出来る限りでお願いします。

街頭署名の意見もありましたが、説明が難しいので、実現は困難かと思えます。

(1) **プリンターがない方へ**：スマホからコンビニで署名用PDFを印刷できますので、署名用紙を印刷して署名してください。

https://www.printing.ne.jp/index_p.html

送付先：〒461-0001 名古屋市東区泉1-1-35 ハイエスト久屋5F

柴田・羽賀法律事務所内、

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会あて

(2) **同じ書体の署名について**：送られてきた署名の中に代筆されたと思われる署名があります。本人のご了解があっても、代筆は認められませんのでご注意ください。

3. 医者に睡眠薬を飲まされ続けて失業…精神科「処方薬依存」の恐怖

<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/66638>

すでにお送りした今年に7/11活動の記事です。新規の購読者のためにお送りします。

4. 故カサンドラ・ナーバーク Aug 27, 2018 (米国人の遺書)

<https://www.facebook.com/100003790370904/posts/1784433668359628/>

情報提供のあった記事です。ご本人が他界しているようなので、内容の真偽は定かではありませんが、ベンゾジアゼピン服用者としてはよく理解できます。また、

ここでもクロナゼパム（リポトリール・ランドセン）は高力価のため被害者が多く、危険な薬物であることがわかります。

日本でも救急現場でベンゾジアゼピン自死者の論文があるので次回にお送りします。

5. スノーボード元五輪代表 国母和宏容疑者逮捕 大麻取締法違反の疑い 厚労省麻薬取締部

https://www.fnn.jp/posts/00048860HDK/201911061944_livenewsit_HDK

外国生活で麻薬やコカインなどの違法薬物に慣れてしまうと、帰国しても使いたくなる典型例です。一部の意見で「すでに医療用・娯楽用大麻が解禁されている国もある」とされるが、そのような国では、違法薬物が蔓延した結果、当局が「使用者から徴税するために解禁したもの」

ですから、「常習者は放っておいても探して使うので、この際、解禁して、税収にした」もの

ですから、大きな誤解があります。日本では水際対策が採られており、未だに「蔓延」していないので、松本俊彦（NCNP）が主張するように「違法薬物使用者の免罪」はするべきではなく、松本の意見にはMHLWも大反対している。

6. 薬物中毒と自殺、平均寿命縮める＝H I Vの感染拡大以来一米

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2019103100861&q=int>

以下引用

『薬物中毒は死者数、死亡率とも17年までの10年間でほぼ倍増。とりわけ25～34歳の男が年平均18.5%増、35～44歳の男が同18.8%増と急激な伸びを示した。中毒死急増の背景には、「フェンタニル」など合成オピオイド中毒の拡大があるとみられる。』

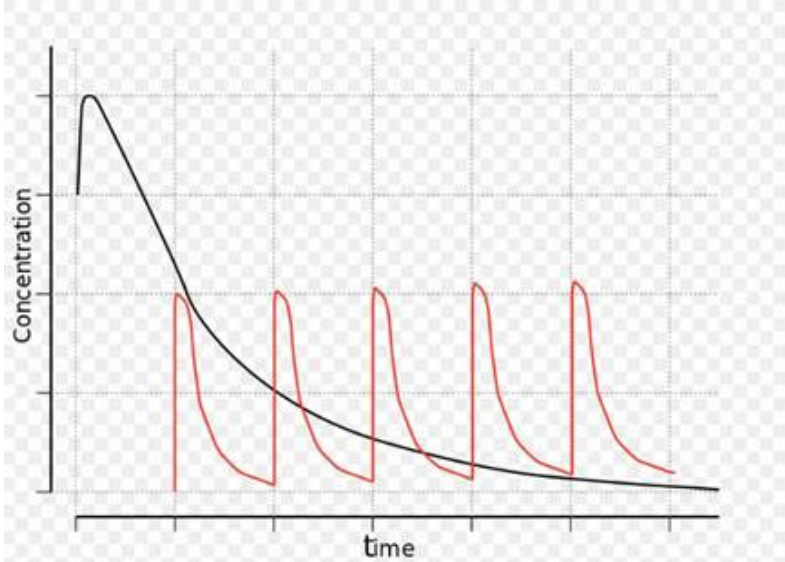
米国の平均寿命を縮めた原因はオピオイドやベンゾジアゼピンなどの処方薬物

による薬物依存が最大の原因である。これではトランプ大統領もお手上げた。
オピオイド危機対処で進展、製薬大手の責任追及へ＝米大統領
<https://jp.reuters.com/article/usa-trump-opioids-idJPKCN1S02P8>

7. 血中濃度の変化と離脱症状

情報Vol.122で「単剤の血中濃度変化図」をお送りしたが、実際は「連用」するので、さらに血中濃度は上がっているため、離脱症状を発症するまでの期間は結構長くなり、また、ベンゾジアゼピン毎に半減期が異なるのでそれぞれであり、さらに、個体差（解毒能力差）も影響すると思います。ただし、飲み忘れも2, 3日続くとかなりリスクが高くなりますので注意が必要です。

また、Wikiにも、「長時間型の薬物が、非ベンゾジアゼピン系やトリアゾラム（ハルシオン）やエチゾラム（デパス）のような短時間型の薬物の1日1度の服用に誤って置換され、高い血中濃度が維持されている時間が少ない。すでに身体依存が形成されている場合には危険である。」として下図があります。ベンゾジアゼピンの変薬は、正確な知識がないと危険です。ご参考に。



<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%99%E3%83%B3%E3%82%BE%E3%82%B8%E3%82%A2%E3%82%BC%E3%83%94%E3%83%B3%E9%9B%A2%E8%84%B1%E7%97%87%E5%80%99%E7%BE%A4>

8. 民法・民事訴訟法の改正が必要（添付）

交通事故の場合と同様に、医療事故の立証責任は**被告医師側に立証責任を転換する**法改正が必要です。

医療者側が医学的知見及びカルテ等の証拠を保持しているため、患者原告側に立証責任がある状況では医療訴訟の勝率は低いままで変わらない。

医療事故の立証責任が原告のままでは、他の訴訟案件（詐欺等の損害賠償など）と同等の立証を求められても不可能なことが多い。

その結果、**地裁民事第一審通常訴訟事件・医事関係訴訟事件の認容率**は（添付）、以下のとおり

	通常訴訟	医事関係訴訟
平成30年	85.5%	18.5%

医事関係訴訟の認容率は、通常訴訟の18.5/85.5=0.22と1/5の認容率という異常な訴訟判決の事態になっている。この異常な事態は最高裁も把握して統計を発表している。



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史

協議会の連絡先

愛知県及び東京都に連絡先を置く

愛知県（暫定仮）
柴田・羽賀法律事務所
〒461-0001 名古屋市東区泉1-1-35
ハイエスト久屋5F Tel : 052-953-6011

